

平成29年7月1日発行

(2ヶ月に一度発行します。)

九州がんセンター外来タイムスについて

・当院では、広報活動のひとつとして外来などに来院された患者さん、ご家族の皆様に広く当院の情報や医療の情報などについてお知らせするため、本誌を発刊しております。

お気軽にお取りいただき、御拝読いただければと考えております。



くすりの飲み方について（後編）

九州がんセンター薬剤部

【正しく薬を飲んでいても…】

薬の効果と副作用

多くの薬では重い副作用がでる頻度は少ないですが、そのリスクを避けるためのポイントを考えてみましょう。薬には目的の効果のことを「主作用」といい、目的の効果以外の薬による影響を「副作用」といいます。普段と違うような症状があったら、できるだけ早く申し出るようにしましょう。

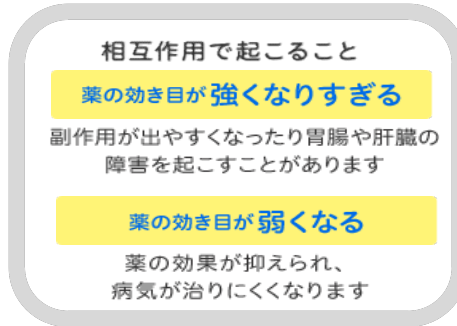
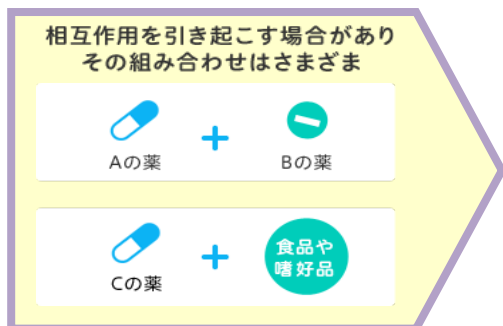


※ 副作用症状の例

- ・眠くなる
- ・のどが渇く
- ・身体がかゆくなる
- ・ブツブツがでる
- ・動悸がする
- ・めまいがする
- ・お腹が痛くなる
- ・下痢をする

飲み合わせの注意

複数の薬を同時に服用すると、効き目が強くなりすぎることや、逆に効かなくなることがあります。一つずつでは問題なくても薬と薬の飲み合わせ、または薬と食品（飲み物/嗜好品含む）の食べ合わせによっては、好ましくない影響がでる組み合わせがあります。この影響を相互作用といいます。



相互作用を防ぐためには、いま飲んでいる薬の情報をもれなく医療者に伝えましょう。特に、お薬手帳を活用すると副作用防止に効果的です。

7月（文月）について

7月は文月（ふみづき）とも呼ばれています。博多で7月といえば山笠であり、何かのCMで「山笠のあるけん博多たい。」といていたことを思い出します。

さて、山笠の由来は何でしょうか。諸説あるようですが、一般的には聖一国師が仁治二（1241）年、疫病除去のため施餓鬼棚に乗って祈祷水（甘露水）をまいて回ったのが始まりだといわれています。

当時は神仏混淆の時代であり、災厄除去の祇園信仰と結びつき、山笠神事として発展したようです。

1241年を起源として2017年は776回目の開催となります。

博多祇園山笠の主な日程

7月 1日	ご神入れ	山笠に神を招き入れる神事。
7月 9日	全流お汐井とり	汐井（真砂）を入れて持ち帰る。
7月10日	流れ舁き	流区域内を舁き回る。
7月12日	追い山笠ならし	追い山笠のリハーサル。
7月13日	集団山見せ	昭和37年から福岡市の要請で行われている。
7月14日	流れ舁き	櫛田入りの練習も兼ねて行う。
7月15日	追い山笠	5キロメートルのコースを一気に駆け抜けていく。

昨年、博多祇園山笠行事がユネスコ無形文化遺産として登録されました。



頭の体操コーナー

•ここからは頭の体操を行うコーナーです、是非参加してみてください。

（初級編）

- 1、亀がいつも背負っている飲み物は何？
- 2、釣りは静かに行う物ですが、にぎやかに皆で行うつりとは何？

（中級編）

- 1、こぼしたら減ってしまうのが飲み物、では、こぼしてもこぼしても減らないのは何？
- 2、世界の真ん中にある虫は何？
- 3、春・夏・秋・冬・一年の中で一番長いのは何？

•初級編、中級編と回答できましたでしょうか。

回答は本誌の下の方にありますのでご覧ください。

本誌では、皆さんからの俳句や川柳などもご紹介したいと考えておりますので、遠慮なくご投稿ください。投稿方法については、当院の外来師長、医事担当者にご提出いただければ幸いです。皆様方のご投稿をお待ちしております。

解答（初級編1 コーラ（甲羅）、初級編2 祭り、中級編1 愚痴、中級編2 蚊、中級編3 一年）